

人間とチンパンジーの違い

新聞で人間とチンパンジーとの違いについて、解剖学者**養老孟司**さんの説を読みました。3才位まではあらゆる面でチンパンジーの方が能力的にすぐれているそうです。しかし4才位から逆転し始めます。人間はその年頃から**他者の立場でものを見る**ことが出来るようになるけれども、チンパンジーにとってはいつまでたっても**自分の方から見た世界しか存在しない**からだそうです。想像力の有無なのですね。

自分以外の誰かの死に接して、それがいずれ自分の身にも起こることだと理解して、その人が感じるだろう痛みを、自分に結び付けて**想像**します。そして死が怖いという**感覚**を持つようになるのでしょう。こうして**他者との交流**を通して**知識**や**感情**を豊かに身に着けて、私たちは**人として成長**してきたのです。

一方動物の場合は、自分が空腹になれば弱いものを食べ殺して生き延びていきます。相手を自分の食欲を満たす餌食として見るか、自分を餌食にする強い相手と見て我が身を守ることにしか考えない**弱肉強食**の世界です。単純で狭い世界なのですね。

ですから私たちは、身の回りの人の**大事な経験**に**思いを寄せて**、喜びや悲しみや苦しみや淋しさを汲みとって、わが身のこととして**共感**し、寄り添って**共に生きていきたい**ものです。

命を育てる言葉の力

釧路の丹頂鶴自然公園で**鶴の人口孵化**に成功した高橋園長の記録は大変参考になります。親鳥が抱かなくなった卵を人工孵化器に 入れます。一日に何回も卵を動かします。30 日頃から卵に向かって時々**言葉**をかけ始めます。すると 10 日ほどたつうちに卵の中から応答が始まり、雛が内側から殻をつつき始め、遂に自分で割り始めるのです。最後の 10 日間**言葉かけをしない卵**は、他の条件をどんなに工夫しても雛は孵らないのだそうです。

更に殻を突き破って雛が誕生するのに6時間かかりますが、可哀想だからと手をかして時間を短くしてやると、弱い鳥になって成長がおぼつきません。高橋さんは「ピー子、頑張れよ」「もう少しだぞ」と**言葉**をかけて励まし続けていました。このように丹頂鶴の命は 科学や技術・機械だけではこの世に生まれてこないのです。命をいとおしみ、何とでも育てようとする**愛**が、**言葉**となって白い卵に語りかけられているうちに、丹頂鶴の命を固い殻から引き出して育てるのです。

私たち人間にとって**言葉の大切さ**は、丹頂鶴の比ではありません。言葉で思いを伝

え、言葉で考え、語りながら考えをまとめ、決断し、行動を起こします。こうして**人格が形成されていく**のです。この大切な言葉を、赤ん坊は持たずに生まれてきます。母親が我が子を抱き、乳を飲ませ、おむつを取りかえ、着替えさせ、寝かせる時に**絶えず語りかけます**。この何百回・何千回の言葉かけを通して言葉が赤ん坊の体に注ぎ込まれ、貯えられていって、やがて溢れるように口から出て来るのだそうです。こうして私たちは**言葉を話す人間**に成長してきました。

赤ん坊が成長してよちよち歩きを始めると母にしっかり手をとられて歩きます。さらに成長して自主性が大事になると、母は次第に手を差し控え、親子は**言葉だけでつながる間**になります。言葉の関係には、**聞く自由**と同時に**聞かない自由**が含まれます。親は背く我が子を愛して受容しますが、我慢の限度を超えると、我が子と**断絶**します。我が子を見限って捨てた親、親を見捨てた子が、悲しいけれども大勢居ます。

いじめる心

K君は小さな体で生まれ、保育器の中で管につながれて命をとりとめました。**運動神経**が鈍く**視覚**にも障害が残りました。バランスをとるため両手をひらひらさせて歩くので、小学校に入ると「**お化けみたい**」とからかわれ、殴られて顔や体にあざをつけられました。

2学期から特別支援教室に編入して救われましたが、3年になると普通学級に戻され、またいじめが始まりました。何と悲しいことでしょうか。でもいじめは学校ばかりではありません。社会に出た若者たちの間でも、同じように苦しむ人が増えています。

他者の立場でものを見る——これが私たちを人間にしていると言われますが、自分から見た立場しか存在しない**チンパンジー的**人間が増えてきたのでしょうか。悲しいことです。

言葉を教え与えた親の責任

我が子に注ぐ親の愛が言葉を与えました。しかし悲しいことに、私たちの心には身の回りの人の**大事な経験**に**思いを寄せて**、喜びや悲しみや苦しみや淋しさを汲みとって、わが身のこととして**共感**し、寄り添って**共に生きていく言葉**が欠けています。どうしても**愛の言葉**を学び取らなければなりません。

私たちクリスチャンは、キリストの十字架に現わされた**神の愛**を知り、キリストを救い主と信じることによって、**真の愛の言葉**を語り、**他者と共に生きる者**になりたいと願っています。

“神はその独り子をお与えになったほどに、世を愛された。
独り子を信じる者が一人も滅びないで永遠の命を
得るためである” (聖書)